http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.335　14/02/28

# 期末、がんばれ！

前号から一週間以上だってしまったが、その間、なにせ入試が忙しかったのである。例年、都立高校の学力選抜入試は２月23日と決まっていた。曜日ではなく、日にちの固定だった。だから、我々教員には日曜出勤の可能性もあって評判がよくないのだが、私立高校など他校の入試との兼ね合いや色々な事情があってそうなっているのだろう。

ところが今年は24日（月）になった。何故だと思う？　23日に実施された東京マラソンのせいである。本末転倒も甚だしいと思うが仕方ない。その結果、例年に比べて合格発表までの日が一日短縮され、その結果、君たちの特別授業が一日延長され、その結果、期末前の授業が減って、その間に採点などの処理がなされた…というわけである。

愚痴はこのくらいにして、では進学指導重点校の国語入試問題から。

**＜傍線部の読みがなを書け＞**

1　客のために床を延べる。
2　巨万の富を擁する。
3　麦芽を原料とした食品。
4　人々のために酷吏を一掃する。
5　珍しい図書を閲覧する。

**＜傍線部を漢字で楷書で書け＞**

1　イタダキを目指して歩き続ける。
2　人前で話す姿はドウに入ったものだ。
3　チンタイ住宅で暮らす。
4　この劇は第二幕がアッカンだ。
5　オリンピックにショウジュンを合わせて練習する。

さて、大丈夫だろうね？　受検生はかなり苦労したようで、読みの４番と書き取りの２番・５番はあまり出来がよくなかった。ちなみに、政経にM井先生は「今年の東大の書き取りより難しいのでは？」とおっしゃっている。では、その東大第一問の中の書き取り。

1　（お金）をカセいでいる。
2　単なるナグサめや励まし。
3　人生がオビヤかされる。
4　ジョウショ的なものを含む。
5　分裂のケイキがはらまれている。

東大は評論文の中からの出題だから、文脈も重要になるが、確かに今年の出題は文脈が必要なほど難しい問題ではない。３番は迷う人がいるかもしれない。

＊

ついでに東大の第三問漢文には、

「妾敢不賀。」（妾＝皇帝の奥様の自称）

の内容を問う問題が出ていた。この文を見てすぐにピンと来なければダメである。なぜなら、これは今回の「枕中記」に登場した「敢不～」の句法だからである。（「敢不～」が反語、「不敢～」が否定。両者セットで覚える。前者「カンプ～」から「カンプン＝漢文」とイメージして、「漢文といえば反語！」と覚えなさい！）　つまり、この文は

「われ、敢えて賀せざらん。」

と読んで、「私はどうしてお祝いしないことがありましょうか、いやお祝いいたします」の意となるのである。先ずはこの意味が分からなければ正確な解答はできないだろう。

＊

今勉強していることは、確実に入試に結びつく。理系の諸君も、センターのみでなく、二次でも国語が必要が多いはずだ。しっかり期末の準備をして実力をアップさせよう。